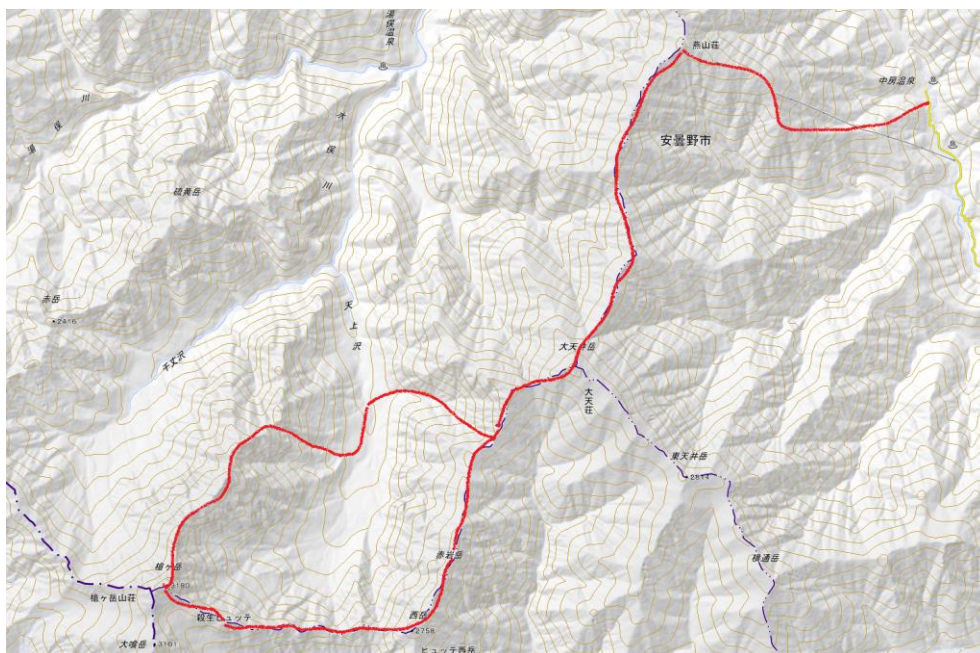


デンソー山岳部 2017年度 夏山合宿報告書

■山城 北アルプス 槍ヶ岳

■日程 平成29年8月12日～8月17日

■メンバー 舘谷昌弥 (CL)、小田修三 (SL, 装備)、藤本悠 (食糧, 記録)、藤田勝都啓 (会計, 気象)



■8/13日(日) 天候：晴れ [藤本 記]

2:00 起床-3:00 中房温泉発-3:55 第二ベンチ一本-5:15 合戦小屋-6:20 燕山荘-8:20 一本-9:20 大天井ヒュッテ-11:20 貧乏沢一本-13:30 北鎌沢出合

起床して各自で朝食をとり出発。天気は晴れ。3時間半弱かけて合戦尾根を登り燕山荘に到着。雲海が広がっており、下は曇りだと思われるが上部は快晴。少し休憩した後、大天井ヒュッテを目指す。縦走中も景色は良く、槍ヶ岳、北鎌尾根がよく見えた。北鎌の科尔はどこだといった話をしている間に大天井ヒュッテに到着。そこから貧乏沢を目指す。貧乏沢への入り口はわかりにくく一度そのまま通り過ぎてしまう。ビックリ平まで出てしまい、貧乏沢が下部に見えることを確認少し戻り、分岐を探す。分岐には小さな看板があり、そこから貧乏沢に続いていた。

貧乏沢は足場が余りよくなく結構滑る。落石に注意しながら下っていく。途中滝のところ一度ザイルを出して懸垂降下を実施した。

北鎌沢出合では水は完全に伏流水となっていたが少し、北鎌沢を少し登ると水が出ており、そこで給水できた。

■8月14日(月) 天候：晴れのち曇り [藤本 記]

3:00 起床-4:05 北鎌沢出合い発-6:20 北鎌の科尔-6:50 コル近くの岩場で藤田が手を負傷-7:00 後続のパーティに代理の救助要請を依頼-11:00 小田が救助要請のためパーティを離れる

【ビバーク組】 コルにてビバーク(1日目)

【小田】 11:00 北鎌の科尔発-13:00 北鎌沢出合-15:20 水俣乗越-16:50 ヒュッテ西岳

<所感>

ケガをした直後は代理で救助要請をしてくれた方の話と各自の遭難経験や知識から早急に救助が実施されると思っていたが、いくら待っても救助隊は来ず、次第に不安が広がっていった。なぜ救助が来ないのかについて皆で議論したが納得できる答えにはたどり着かなかった。

代理での通報であったため警察の話は又聞きになってしまい、救助要請が通っていない可能性がある判断し、パーティを分断して救助を要請することを決断した。

小田が出発したことで救助要請は2重となり不発のリスクは低減されたものの、二重遭難や天候の悪化の可能性もあるため、本日中に救助されない事態を想定し始めた。ビバークを覚悟シテントを設営したが、自分たちがどういう状況に置かれているかが分からず常に不安であった。

その後、水俣の沢で小田とすれ違ったパーティが科尔に到着したため、ほぼ確実に小田は水俣乗越に到着して救助を要請してくれたものと確信できた。

ガスにより当日中に外部と連絡を取れなかったが、翌日には救助されるであろうとの見込みを立てられて安堵した。藤田の怪我が悪化しないか不安であったが、幕営適地、水、食料が揃っており不自由なくビバークを実施できた。

■8月15日(火) 天候：晴れのち雨 [藤本 記]

【ビバーク組】 コルにてビバーク(2日目)

【小田】 ヒュッテ西岳にて待機(救助隊との窓口)

朝一で留守部員の吉田と連絡がつき、救助の体制がとられていることを確認でき安心した。小田の救助要請が正式な要請となったならば悪天候によりヘリが出動できなかったことも理解できた。早朝の天候は良かったため午前中に救助されるのではと期待した。しかし、次第にガスが湧き出るにつれて、ヘリによる救出をあきらめ始めた。

頼みの陸路の救助隊は午後になっても到着せず、日暮れの時刻を考慮すると本日もどこかでビバークとなるのではないかと不安がよぎった。

午前中は藤本と館谷はロープワークの練習をするなど、気持ちと体力に余裕があったが、午後にはさすがに待ちくたびれてしまった。

15時過ぎにビバークを覚悟したところで学生のパーティが登ってきた。コルからガス越しに薄っすら見えた姿を救助隊と間違えて歓喜したが、一瞬のうちに落胆へと変わった。

留守部員の森との電話で本日中の救出がないことを聞いたときは、残念ではあったがスッキリした気分のほうが大きかった。16日は間違いなく救助隊が来るであろうこと思えて安堵した。電波が弱く電話の会話がうまく続かないため詳細な状況は分からなかったが、明日の昼頃には救助されると見通せただけでメンバーの気分は明るくなった。気になるのは藤田の怪我が悪化することであるが、落ち着いている様子であり無事であることを祈った。

■8月16日 天候：雨〔藤本 記〕

【ビバーク組】コルにてビバーク(3日目)

【小田】7:00 ヒュッテ西岳-14:00 上高地(下山)

エネルギー節約のため、9時にテント以外をパッキングしてからずっと横になっていた。森との電話により救助隊が向かっていることを確認でき安堵した。

雨の中で北鎌沢を下ることは非常にリスクが高いように思われたが、救助隊であればきっと無事に下してくれるであろうと期待した。

早ければ11時頃に救助隊が到着するのではないかと期待していたが、午後になっても到着せず次第に不安が広がった。

こちらへ向かっているのに救助隊が来ない理由が分からなかった。午後になり、もうすぐ来るのではという期待と、今日もダメなのかという絶望の狭間でモヤモヤしながら時を過ごした。

森からのショートメールにより救助隊が搜索を打ち切ったことを確認した時は悪い予想が的中したということで落胆したが、明日こそはと気持ちを切り替えてスッキリすることができた。

期待と不安が入り混じった中でモヤモヤした気持ちで救助隊を待つことが精神的に非常にづらいことがこの3日間でよく分かった。

横で停滞していた学生パーティの話では17日のみ天候が回復するようで、救助隊も必ずこの機会を逃さないはずである。翌日は隊員を増員するとの連絡もあり、救助隊の本気度が伝わってきて、明日こそは必ず救出されると確信した。

■8月17日 天候：晴〔藤本 記〕

【藤田】10:00 ヘリに収容

【館谷、藤本】10:10 北鎌のコル発-11:10 北鎌沢出合-13:00 水俣乗越-18:35 上高地(下山)

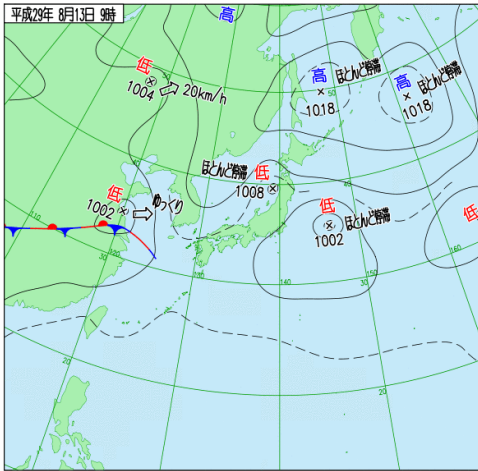
起床してテントの外に出ると空は快晴であった。ヘリによる救出が可能であれば、昨日の想定より早い救出が実行されると期待した。空腹とエネルギー不足を感じたが、心地よい日差しの下で全ての装備を乾かしていくと元気が湧いてきた。全員がパッキングを終えて一息ついたところで救助隊が到着した。想定より2時間早い到着であった。到着から5分後にはヘリが出動し、隊員の方の指示に従ううちにあっという間に藤田の救助は完了した。やはり救助隊の方が来てくださると心強いと感じた。救助隊の方に次から次へと行動食を分けてもらったがとても美味しかった。

下山は1時間で北鎌沢を下り、2時間で出合から水俣乗越までたどり着くというハイペースで行われたが、荷物が軽かったので付いて行くことができた。

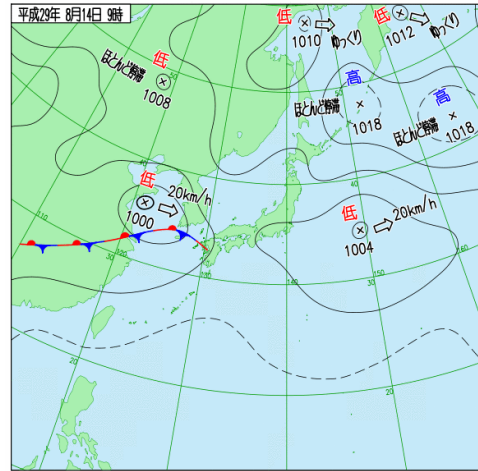
横尾で救助隊と別れる際には、救助隊の隊長から「今回の状況であれば自力で下すべき。それができなければ今回のようなルートに行くべきでない」とのお叱りをいただいた。二重遭難のリスクを考えれば今回の救助要請の判断は間違っていないと思うが、救助のスキルが全くなかった点は反省しなければならない。

■ 気象

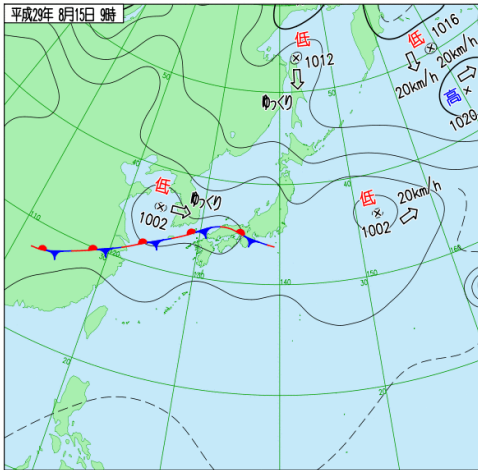
8/13 晴れ



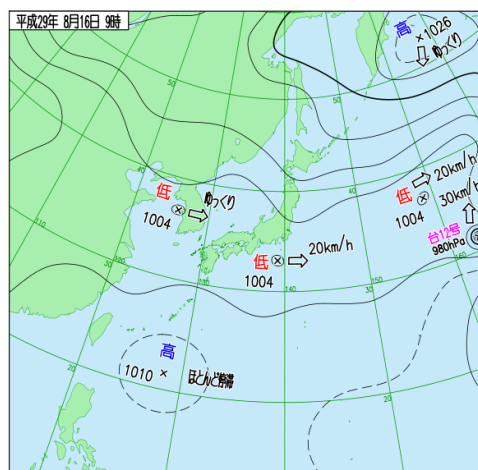
8/14 晴れのち曇り



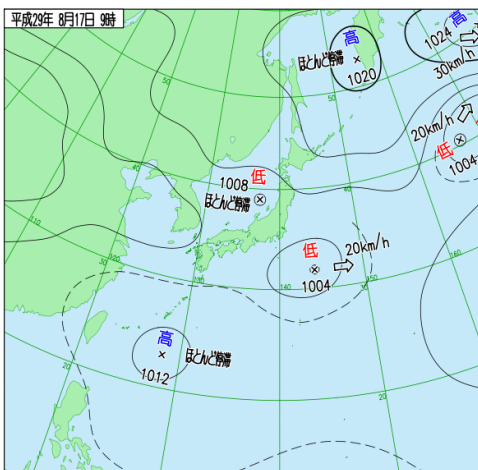
8/15 晴れのち雨



8/16 雨



8/17 雨



■会計

ガソリン代	8,080 円
高速代	9,400 円
車消耗費	2,980 円
バス代	4,800 円
テン場代	4,000 円
食費	10,400 円
合計	39,660 円

※遭難関連費用を除く。

■食糧

計画

	8/12(前泊)	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17
朝食		各自	各自	各自		
昼食	各自	各自	各自	各自		
夕食	すき焼き、米	パスタ、スープ	井もの			

記録

	8/12(前泊)	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17
朝食		各自	各自	各自	行動食など	行動食など
昼食	各自	各自	各自	各自	なし	
夕食	すき焼き、米	パスタ、スープ	井もの	α米、ラーメン	スープなど	

不破さん、牛しぐれの差し入れありがとうございます。

■リーダー所見

今回、遭難の当事者となったことで、ファーストエイドやレスキュー、非常時の対応など、自分に足りない点がはっきりした。今山行の経験を糧に、技術や判断力を向上させていきたい。（館谷）

■メンバー感想

ビバークしていた3泊4日は長いようで短いような、色々あったようで無かったような不思議な時間であった。山行としては残念な結果となってしまいましたが、今後も登山を続ける上で勉強になるとも貴重な体験であったと思う。メンバーや留守部員と協力してある程度の対応を取ることができたが、応急処置や救助要請などは知識があればもっとよい対応ができたであろう。反省すべきところは反省し、より安全で楽しい登山を目指してレベルアップをしていきたい。そして、これに懲りずにまた北鎌にチャレンジしたい。（藤本）

今回の山行で自身初の遭難を経験したが、最悪の状況を想定して行動することの難しさを改めて感じた。不測の事態に陥った際に同行メンバーと想定できうる限りのパターンを考え、行動しなければならない。今回はその点において十分な対応ができたとは言えない。この経験を活かして、今後の山行で様々な事態に対し、より安全な選択ができるように精進したい。色んな経験ができた山行でした。同行メンバーに感謝。（小田）

入山前、北鎌尾根で最も注意すべき点は落石だと思っていたが、まさか自分が落石により右小指骨折するとは……。幸いにも、同行メンバー、遭難救助隊、デンソー山岳部の仲間のご尽力により救助されて感謝しています。山で救助を待つ3日間、「自分は生かされている」と考えていました。（藤田）